

## 赤坂だいすけ 代表質問

**我が国の主権について今一度思いを致すべき。  
我々こそが責任を果たし、未来を救う世代になろう!!**

1. 我が国の主権を脅かした尖閣諸島沖の中国漁船衝突事件。これを契機として頻発した反日デモ発生地域は、災害の都度我々が見舞金、義援金を送った地域ばかりである事態を鑑みるにつけ、一昨年私が指摘した通り、我々の善意は全くの無駄に終わったという歴然たる事実が残った。政経不可分を主是とすべき。私自身は平和条約未締結国や日本国民の生命財産を脅かす拉致等を侵す国や日本の領土を強奪したままのロシアなどの国に対する見舞金、義援金の類は不要と考えるが、区も議会も検討が必要ではないか。また、友好とは日本が譲歩することではない。区長、議長の見解を伺う。
2. 「地域主権」なる迷妄語を区議会でも耳目にする。主権とは国家にのみ存する概念であり、分割不可能な至高の観念であり、独立国家もしくは連邦制を志さぬ以上、地域主権なる言葉は存在しえぬ。「立憲君主国」たる日本国政体との整合性は。憲法、政治、体制理論的には中央集権への対案は、あくまで「地方分権」。「地域主権」という限り、国権の発動たる戦争に至る宣戦布告はもとより、立法行為、安全保障までの全責任を取らねばならないが、それほどの覚悟を有しているのか。「主権」という観念への厳粛性は微塵も感じられず、いやむしろその厳粛性を愚弄している。肝心要の事を曖昧にしているから「主権」が他国に侵害されても鈍感なのだ。見解を伺う。
3. 国家公式見解上、世界最長の伝統である皇統、日本は現存最古の国家であるが故に、最も幅が広く、最も奥深い文化を持っている事実、日本語は漢字、平仮名、片仮名の三種類の文字が有機的に機能し、かつ文字の羅列に留まらず視覚にも訴えるという稀有な多角的文字伝統を誇っているという歴史と多様性を有するのみならず神代に通じる誇るべき言

- 語なのだという事実。万葉集をはじめとする世界に冠たる作品文化群は言うに及ばず、世界に普遍的価値をもつ華道、茶道、書道、能、狂言、歌舞伎、相撲、柔道、剣道等々、雅楽に代表されるリアルクラシックたる音楽文化。誇るべき豊富な食文化。等々の圧倒的事実認識が果たして子供たちに教えられているのか。子供たちが本来持つ日本人としての誇り高き資質、教養を醸成する為にも、まさに教育が最根幹と考えるが、教育長の見解を伺う。
4. 事業者の町会加入へ向け積極的取り組みを
  5. 大人の大人による大人のための利便性のもとで、子供達の空間がない。大人の目線による大人にとって都合のよい大人にとって快適な子供の遊び場ばかりで、本来遊びの天才であるはずの子供達が可哀相でならない。子供に対する社会の許容力が極度に低下している。子供を管理し、大人の都合のよいように子供を型にはめ、子供の居場所を奪い、その場所を観光客ばかりが占拠する事を優先させていけば、いずれ必ず痛烈なしっぺ返しがあるのだという事を社会や大人たちは覚悟した方がよい。当選以来一貫して訴えてきた南青山一丁目公園、有栖川公園ほか区内各公園においては「ボール遊び禁止」看板は文字の消去、看板の架け替えで改善された。子供達が公園に戻ってくる契機になれば、区内公園ではボール遊びは禁止されてないので禁止看板撤去の徹底確認を。高輪森の公園に続く区内プレイパークの増設を。
  6. 電線類の地中化促進が遅々として進んでいない。世界に冠たる東京の都心区としても、さらには安全かつ安心な街づくりのためにも、何より次世代に誇りの持てる美しい街並みを残していくことは、現代に生きる我々の責務。早急に取り組めると判断できる区道の約73km、約33%についての取り組みを。



赤坂 大輔 総務常任委員  
行財政等対策特別委員会 副委員長

7. 地元赤坂小学校の児童に対する、不審者による乗車への呼び掛けなどの看過しえぬ事態が頻出、増加している赤坂地域においては、体感治安改善事業の益々の推進が必須。パトロールに留まらぬ今後の活動計画について伺う。区内各地区への拡大予定についても伺う。
8. 地球温暖化対策・温室効果ガス削減について。みなとモデル二酸化炭素固定認証制度の早期構築を。我々は世代の責任を果たし、未来を救う世代にならねばならない。
9. 特別養護老人ホームの増設、在宅介護、看護への支援、公共や民間の様々なサービスを熟知し、適切にアドバイスできるコーディネーターの養成、今後の介護予防事業充実を。
10. 新郷土資料館計画は、白金台四丁目「旧国立保健医療科学院跡地」での整備検討は如何か。
11. 首長の育児休業が議論を呼んでいる。私自身は「父親の育児参加は必須であり、育休が取れる社会には賛成だが、首長の育休はあくまでも世間が育休をとれる環境になってから取るべきで、首長の公人としての立場、私人としての立場を曖昧にするのは如何か」と考えるが、見解を伺う。